

平日昼間の「ひるがおマルシェ」
子育て中ママとか、地域のつながりに

「ひるがおマルシェ」は、忙しい日々を過ごすママさんや地域の方々がほっと一息つき、交流を楽しむための場所です。主催者の町田睦さん（愛称：むっちゃん）はこのマルシェを通じて地域のつながりが自然に深まっていくことを目指しています。

YouTubeでのインタビューから、その想いやイベントづくりの工夫について見てきたものをご紹介します。

平日の昼間、
黒磯駅近くに“新しい楽しみ”

「ひるがおマルシェ」誕生のきっかけは「平日の昼間に気軽に出来場所が欲しい」というむっちゃんの気づきでした。家事や育児に追われるママさんたちが、お昼のちょっとした時間にリフレッシュできる場所をとしてスタート。気分転換ができ、日常に少しの彩りを加える、地域の生活に寄り添ったイベントです。

並ぶのは、地元の多彩な魅力

ひるがおマルシェでは地元のキッチンカーやハンドメイド雑貨、さらにはセラピー



4月から youtube はじめました。
チャンネル登録、お願ひます！
<https://www.youtube.com/@shouchann>



認定 NPO 法人 とちぎボランティアネットワーク

会員大募集

年間＝賛助会員 3,000 円、 支持会員 5,000 円、

団体会員 20,000 円 (安っ!)

隔月で『ボランティア情報』

隔月で「FB うつのみや通信」

隔月で「県北Vネット+ FB 大田原通信」3冊届く！

北県須那・うりく・けあひ



編集後記) 原稿が多くなり、編集に苦勞しなくなりましたが、半面県北にも行っていない。しょうちゃんとも話してない。。。です。が、冬用タイヤが倉庫にあるので年内には履き替えにいきますね(矢)

電話 0287-48-6000 (安井)



県北Vネット+ 子どもの居場所& FB 通信

2024/11/14

秋祭り、40大成功でした！

11/9にスマイルハウスで秋祭りが開催され、地域の皆さんとの楽しいひとときを過ごすことができました。秋晴れの中、たくさんの方々にご来場いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。今回の秋祭りでは、地元の手作りの手芸品や焼きたての米パン、もち、カレー、ポップコーンなど、多くの方が出店や美味しい料理を楽しんでくださいました。

また、フードバンク関連で食品配布会も行い、約50世帯の方々に新鮮な秋の野菜をお配りしました。皆さんが喜んでくださった様子を見て、こちらも心が温かくなりました。

さらに、ボランティアスタッフの皆さんにも感謝申し上げます。約40人のボランティアの協力あってこそ、無事にイベントを終えることができました。みなさんのサポートのおかげで、地域のつながりや温かさを再確認することができました。来年もまた、このような素敵なかつりが開催できることを願っています。

ご来場いただいた皆さん、出店いただいた

た皆さん、そしてボランティアの皆さん本当にありがとうございました！（しょうちゃん）

発行日◎2024/12/15 ◎第29号

発行者◎認定NPO法人とちぎボラン

ティアネットワーク（県北事務所）

〒324-0051 大田原市住吉 2-16-22

●電話 0287-48-6000

●FAX 0287-48-6700

● <http://tochigivnet.com>

● tvnet.kenhoku@gmail.com

スマイルハウス HP

● <https://smilehouse-kenhoku.com>

◎記事 / 安井将太

◎発行人 / 矢野正広



2024/12/13

子ども体験活動

「なめろう作り」～モリウミアス・オンラインプログラム！

森・海・明日
月に一度のモリウミアスオンラインプログラム。子どもたちと一緒に楽しむ調理体験活動を行いました。今回のテーマは、「アイナメと銀鮭」を調理して、なめろう作りです。

オンラインという形で、子どもたちは画面越しに真剣な表情で包丁の使い方を学び、魚を切る体験を楽しんでいました。少し戸惑いながらも、スタッフの丁寧な指導！？のおかげでどんどん上達！

また、なめろうを作る過程では、みんなで「叩く」作業に挑戦。包丁で細かく刻んだ魚と味噌、薑味を混ぜ合わせるうちに、だんだんと食欲をそそる香りが広がりました。「自分たちで作ったから、もっとおいしく感じる！」という声もチラホラ。



出来上がったなめろうをみんなと一緒に味わいながら、子どもたちは「また作りたい！」と笑顔を見せてくれました。このプログラムを通じて、料理の楽しさだけでなく、食材への感謝の気持ちも育まれたようです。

自然と人をつなぐモリウミアスの活動、次回も楽しみです！（しょうちゃん）

トーキョーコーヒー=とうこうきよひ 大人がイキイキ学びあえる所を500か所。子どもも安心して 過ごせる。学校教育を進化させるムーブメント起こす！ 全国各地で展開中



気になる
この人⑪
◎
久松しのぶさん

トーキョーコーヒー
大田原

ホームページ (<https://tkcf.eft-art.jp/>) には、①全国に大人がイキイキ活動できて学び合える拠点を500か所以上つくる。②全国の拠点では子どもたちの個性が尊重され、安心して過ごせる。③みんなの活動を通して、学校教育を進化させるムーブメントを起こす、という目的が掲げられている運動（ムーブメント）です。

登校拒否「学校の環境や人間関係」が原因なことが多い。

久松さんは自身の子どもが不登校になった経験から、トーキョーコーヒーの運動に強く共感し活動に加わりました。インタビューの中で、不登校の子どもたちが抱える様々な悩みと、その親たちの苦悩について語りました。不登校の理由は子どもによって様々ですが、多くの場合、学校の環境や人間関係が原因であることが多いと言います。親にとっても、子どもが学校に行けなくなることは大きな衝撃であり、その先の不安は尽きないものです。

しかし、久松さんは「今を大切にすることが大事」と強調します。将来のことばかりを心配して焦るのではなく、今子どもが安心できる環境を作ることが、最も重要だと考えています。トーキョーコーヒーの活動も、その理念に基づいており、大人が楽しんで活動することで、子どもたちがその安心感を感じ取れる場を提供しているのです。

大田原では、畑仕事を通じた癒しとつながり

トーキョーコーヒーの活動の一環で、栃木県大田原市で畑作業を中心に活動しています。畑での作業は、自然と触れ合いながら心を落ち着かせると同時に、人々が自然の中で共に作業をすることで、強い絆が生まれます。キャベツやレタスといった野菜を育てながら、参加者が自然の中でリフレッシュし、元気を取り戻していく様子を喜んでいました。

畑の作業は、ただ野菜を育てるだけでなく、参加者同士が話し合い悩みを共有し共感し合う時間が作られています。このような活動

詳しくは <https://tkcf.eft-art.jp/>

●拠点に遊びにいきたい人⇒①公式HPの「MAP」から探そう！②MAPのピンをクリックしてSNSをチェック ③DMで連絡して活動に参加しよう！※拠点にあそびに行くだけなら研修や登録などは必要ありません。気軽に連絡をとってください。●主宰者になりたい人は、研修と会費が必要です。

今月のSOS

予約なしでOK
食品配布会

毎月第2土曜

13-15時●FB県北事務所

新規利用者

■ 10月：6家族

10月15日●TSS男84歳・初・大田原。

独居。(詳細不明) ⇒米3K提供

10月16日●AYF女42歳・初・那須塩原。

2人家族。子ども(8)がADHDでフルタイム勤務ができない。パート収入は月8万。生活が安定するまでFBを活用。⇒米5K食品提供。●⇒11/9:米5K食品7.4k

10月17日●YSS男39歳・2022から継続・大田原。

独居。1年半ぶりに来所。仕事がなく社協の緊急小口貸付資金の申請にきた。FBとハローワークを紹介。⇒米2K食品1.3K●⇒11/6:食品1.7K●⇒11/19:米3K,食品0.7K

10月18日●TDT男62歳・初・那珂川。

独居。生活保護を検討中。妻とは離婚?⇒食品5.9K

10月24日●KTK男62歳・初・大田原。

独居。不眠や他の病気で通院している。

生活保護の相談に行き担当者と来所。就労希望。8月から収入がない。⇒食品提供

10月31日●YMI女51歳・初・大田原。

独居。所持金なく食物ない。パワハラで過呼吸になり昨日退職した⇒米3K他の食品も提供

■ 11月：7家族

11月6日●HRS男64歳・初・大田原。

独居。給料日までお金がない。月収に20万だが借金返済でなくなった。借金多く債務整理が必要。⇒米3K食品1K

11月9日●TMO男47歳・初・大田原。

独居。無職。交通事故の後遺症で高次脳機能障害あり、記憶障害で聞き取りできない。健康状態は悪い。交際中の女性と来所。障害者手帳3級。⇒米5K食品提供

11月9日●SGO男49歳・2024/3月から継続・大田原。

5人家族(両親、妻、子13歳)。月収22万。妻と親が手術後

FB利用世帯数

10月 新規 6、総数 52 世帯

11月 新規 7、総数 55 世帯

●下記の事例は新規の世帯をピックアップしています。この他に40～50世帯の継続支援の世帯があります⇒「総数」。

●「新規」はその月に今年初めて来た世帯。「継続」は前年からの継続ですが、その月初めて来た世帯(しばらく来なかった世帯)です。

で働けないため収入が少ない。(交通事故?) 全身打撲で2か月休業をした。その後生活が困窮。生活を立てなおしたいという。⇒米5K食品7K。「奨学米」の支援を開始した。●⇒11/9:米5K食品7.4K

11月9日●TMK女37歳・初・大田原。

6人家族(子14+12。義母83。夫58歳病弱)。離婚し前夫の借金で自己破産。借金は200万⇒米5K食品7.4K

11月11日●TTK男66歳・初・大田原。

独居年金収入のみで厳しい生活。生保申請中⇒食品1.1K

11月13日●MYY女22歳・初・那須塩原。

3人家族。収入が少なく食品が買えない⇒米7K食品5.4K

11月14日●YSN男73歳・2023/7月から継続・大田原。

2人家族。妻パーキンソン(要介護4)で借金・家賃滞納あり。年金だけで生活できない。月3万の支払いだが年金では貰えない。⇒食品1.5K

は、久松さん自身にとっても癒しの時間であり、コミュニティとのつながりを深める場となっているのです。

登校拒否を超えて広がる、大人たちの活動の場

トキヨーコーヒーは当初、不登校の子どもたちの居場所を作ることが目的でしたが、現在はその枠を超え、大人も含めた幅広い層の人々が集う場所として進化しています。大人たちが楽しんで活動する姿を見て、子どもたちがその場所で安心し、自分を表現できるようになることが、トキヨーコーヒーの大きな強みです。各拠点では、農業以外にもアートや料理、イベント企画など、参加者それぞれがやりたいことを自由に展開できるのが特徴です。

久松さんは、今後も畑作業を中心とした活動を続けるとともに、福祉や障がいを持つ人々とのコラボレーションを視野に入れています。「困っている人たちが集まって元気になる場所を作りたい」

と語り、多様な人々が集い共に成長できる場を提供することを目指しています。

このような活動を通じて、トキヨーコーヒーは地域社会にとって大切な居場所となり、様々な人々の支えとなっています。

インタビュー後記●今回のインタビューでは、久松さんの活動とトキヨーコーヒーの魅力が伝わってきました。不登校の子どもや大人が安心して集える場所として、自由な活動を展開しているトキヨーコーヒーは多くの人にとって大切な居場所です。久松さんの畑作業を通じた癒しとつながりは、これから多くの人に元気を与えてくれるでしょう。(しょうちゃん)

